

『50代から生涯暮らすリフォーム』

天野彰・天野彰人共著、KADOKAWA、2018年5月31日発行

価格(本体1,500円+税)

人生100年時代、50代は折り返し点です。

長年日本人の住まいを見つめてきた建築家親子が、これからの人生をどう暮らすかをテーマに快適なリフォーム術をアドバイス！

実際に手がけた最新事例を基に、写真とイラストでわかりやすく全47の手法を提案します。本当は家のことを50代で考えるなどとは遅いのではないか、と思います。30代、40代で家を建てた人は、その時に80年、90年という自分自身の人生時計を連想しながら家をつくっていれば、50代で慌てることはないのです。また、今日のように社会問題になっている「空き家」にもならないのです。

しかし実際にはバリバリと忙しく働いている時期に「愛の巣」である家ができて、子どもがひとり、2人と生まれ育ち成人して、「定年もそろそろかなあ」と、初めて先の人生を考えるとというのが50歳過ぎで、その時に住まいとの大きなギャップがあることに気づくのです。でも慌てることはありません。この時こそ、夫は妻を、妻は夫を見る必要があります。すると「そういえば、お互いにだいぶ老けたな」となる。こういうところからリフォームを考えるべきだと思います。夫婦は同じ部屋で寝ているか、もっといって仲睦まじいか、あるいは子どもをいつまでも子ども扱いしていないか、など夫婦や親子関係の曖昧になっている部分を見つめ直し、家族各々をひとりの人間として捉えることが重要なのです。

実際には、どうしようもない状態になっていることがけっこうあるのです。ものはなかなか捨てられず、子どもたちが巣立った場所はほとんど残骸のまま、その空間が死んでいる。こういう状態のまま10年、20年と住んでしまっているのではないのでしょうか。

100歳時代のわが「人生時計」を見ます。すると、40代後半か、50代後半か、あるいは60歳か、自分の位置がわかります。するとその周りに子どもたちの時計があることに気が付きます。この時計を見て自分の今からを見直してみてください。

この本はわかりやすく項目を立ててまとめているのですが、単なるハウツーにとどまらず、実際設計した住まいの中にイラストにて生活を描き、これからの住む人の人生を考え、いかに生き生き生きていくかを考える本にしています。現在70歳を超えた建築家と、40代の子供世代の建築家の視点から考えています。子どもが40歳、親が70歳の「40-70」では遅いので、やはり「20-50」で、というのが設定です。50代はもちろんですが、同時に若い世代あるいは高齢世代にも自分たちのこととして考えていただく本です。